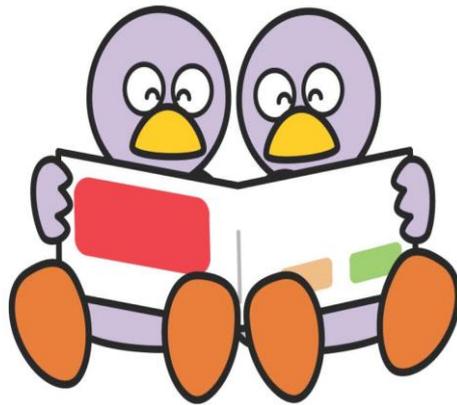


学校間の接続に関する 調査研究

—教科指導の視点から—



埼玉県マスコット 「コバトン」

埼玉県立総合教育センター
教育課程担当

本研究は、小学校、中学校、高等学校間の接続を円滑にするために、指導内容・指導計画・指導方法等について、教科指導の視点から有用な提言を行うものです。なお、教科等の表記については略称を用いています。

「学校間の接続に関する調査研究」（最終報告）

－教科指導の視点から－

1 はじめに

中1ギャップ、高校の中途退学、児童生徒のコミュニケーション能力の低下等、現在学校教育が抱えている問題の解決のためには、小学校から高等学校まで各接続の段階で、子供の発達や学びの連続性を踏まえた指導が大切である。従来から、小中、中高のそれぞれの接続の問題は解決すべき課題としてあげられ、本センターの「平成19・20年度教科等で考える異校種間の連携の工夫に係る調査研究」でも、教科の系統性に基づいた学校間連携の必要性を明らかにしたところである。また、義務教育指導課では、平成24年度より、県内8地区で「小中一貫教育推進事業」を実施している。市町村支援部家庭地域連携課からは、幼児期の教育と小学校の円滑な接続を目指し、平成24年、「接続期プログラム」を示している。こうした動きの中、本センターでは、特に教科指導における接続に着目し、教科指導の専門的な見地から有効な手立てを提言したいと考える。本調査研究では、教科指導の系統性の研究をさらに発展させ、小学校、中学校、高等学校間の接続の段階における、児童生徒の意識の違い（意識の段差）、指導内容・指導方法の違い（指導の段差）の実態を共通調査と教科別調査によって把握し、それに応じて指導内容、指導方法等を工夫改善し、学校間の接続が円滑になることを目指すこととする。

24年度調査研究で明らかになったこと

① 指導内容・カリキュラムの検討の重要性

平成24年度、共通調査（調査研究委員の所属する県内小中高等学校の児童生徒を対象に実施。内訳は小学校18校679名、中学校19校（中1 604名、中3 649名）、高等学校16校694名。平成24年7月実施。）を実施した。下の表1～5は共通調査からの抜粋である。表1～3からはおおよそ、小中高の接続段階において、意欲、理解度が低下傾向になっている様子が読み取れる。接続段階での段差が存在するといってもよいであろう。一方、中1から中3にかけて意欲、理解度が高まっている教科があるのも興味深い。児童生徒の実態を把握しつつ、児童生徒の学習への意欲、理解度を高める工夫が求められる。また、教科により、児童生徒の回答に違いが見られる。こうした現状を受け、教科の特性を生かし、系統性を意識した指導内容・カリキュラムの工夫をしていくことが、児童生徒の学習意欲を高め、学習の理解度を向上させる一助になればと考える。

【共通調査より】

表1 Q54～63 次の授業にどのくらい意欲的に取り組んでいるか（「意欲的である・やや意欲的である」と答えた割合） (%)

	小6	中1	中3	高1
国語	79.8	73.5	81.5	73.7
社会/地歴・公民	79.2	77.4	85.1	70.6
算数/数学	80.1	71.7	79.8	68.0
理科	84.8	79.0	77.2	71.2
音楽/芸術	72.6	72.9	80.5	60.5

図画工作/美術/芸術	86.0	73.7	75.1	60.5
家庭/技術・家庭	82.6	70.5	75.8	53.9
体育/保健体育	87.0	80.6	82.1	73.2
道徳	77.1	68.7	68.5	
外国語活動/外国語	81.0	80.3	69.3	62.7
平均	81.0	74.8	77.5	66.0

表2 Q66～73 次の授業をどのくらい理解しているか（「ほとんど理解している・やや理解している」と答えた割合） (%)

	小6	中1	中3	高1
国語	87.9	79.1	80.6	68.3
社会/地歴・公民	80.7	77.8	79.5	64.5
算数/数学	84.7	73.5	67.6	56.6
理科	87.7	79.4	66.2	60.2
音楽/芸術	77.4	77.1	78.0	61.3
図画工作/美術/芸術	89.1	80.3	78.4	61.3
家庭/技術・家庭	87.3	74.2	74.5	50.6
体育/保健体育	89.3	81.8	83.8	69.9
道徳	84.7	79.8	77.7	
外国語活動/外国語	79.2	77.0	58.1	53.2
平均	84.8	78.0	74.4	60.7

表3 Q3, 12, 13（「よくある・時々ある」「とてもそう思う・わりとそう思う」と答えた割合） (%)

	小6	中1	中3	高1
Q3 家で自分から進んで勉強をする	73.4	60.1	58.3	40.0
Q12 学校の授業が楽しい	79.1	63.9	56.6	48.2
Q13 学校での勉強がよくわかる	85.8	68.4	62.8	43.6

② 指導方法の検討の重要性

同調査において下の表4、5からは、授業中の児童生徒の取組の様子、授業や勉強方法において、小中高の違いが浮き彫りになっている。こうした学校種間の違いに気付き、学び、指導方法等を検討することが円滑な接続を考える一助になるのではないかと考える。指導方法における有効な接続に向けた取組が可能かどうか検討していきたい。

【共通調査より】

表4 Q95, 101, 103, 104, 105（「よくある・時々ある」と答えた割合） (%)

	小6	中1	中3	高1
Q95 楽しく学習していた	85.7	73.0	66.3	57.7

Q101 いねむりをした	16.0	21.0	41.9	53.3
Q103 近くの人とおしゃべりをした	56.4	49.4	59.3	52.5
Q104 他の教科の勉強などをした	17.7	15.6	23.6	28.8
Q105 ぼうっと他のことを考えていた	47.7	49.3	61.3	67.4

表5 Q87～94 （「とても好き・好き」と答えた割合） (%)

	小6	中1	中3	高1
Q87 先生が黒板を使いながら教えてくれる授業	85.2	75.2	82.8	77.0
Q88 個人で考えたり調べたりする授業	78.5	61.4	63.9	50.9
Q89 グループで考えたり調べたりする授業	81.7	69.4	70.4	59.2
Q90 ドリルやプリントを使って行う授業	61.8	54.0	63.4	56.5
Q91 自分たちでテーマや調べ方を決めて行う授業	76.4	59.9	54.1	45.8
Q92 パソコンを使って行う授業	90.9	82.4	79.7	65.8
Q93 友達と話し合いながら進めていく授業	83.5	75.9	74.1	68.9
Q94 考えたり調べたりしたことをいろいろ工夫して発表すること	59.5	48.5	44.3	38.3

平成 24 年度調査研究で明らかになったことについて、詳しくは、埼玉県立総合教育センター平成 24 年度 調査研究報告書 第 362 号をご覧ください。

2 研究の目的

平成 24 年度は、共通調査に加え、教科ごとの調査をもとに各教科の課題を精査し、それぞれの課題意識に基づいた調査研究を進めた。各教科で学習指導案の作成、指導計画の作成、学習モデルプランの作成等、教科の特徴を生かし、研究に取り組んだ。

平成 25 年度はこうした成果をもとに主として検証に取り組む。共通調査からは教科、校種で違いがあることもうかがえた。それぞれの教科及び校種の特性を踏まえ、より効果的な手立てとなることを目指し、学校間の接続を円滑にするための指導内容・指導方法・カリキュラムの研究開発、及び検証を行うこととする。

3 研究の内容

- (1) 学校間の接続を円滑にするための指導内容・指導計画の検討及び検証
- (2) 学校間の接続を円滑にするための指導方法の検討及び検証

4 研究実施計画

- | | | |
|-----------|--------------|--|
| 第 1 回 | 5 月 14 日 (火) | 全体会 (平成 24 年度報告、今後の方向性について)
教科別会議 (研究内容及び方向性、日程確認等) |
| 第 2 ～ 4 回 | 6 ～ 11 月 | 検証授業 (教科ごと)
接続プログラムの検討 |
| 第 5 回 | 10 ～ 12 月 | 研究のまとめ、報告書の完成 |

5 研究協力委員

平成25年度「学校間の接続に関する調査研究」(2年次)

No.	校種	教科等	学校名	職名	氏名	担当者
1	小	国語	加須市立北川辺西小学校	教諭	坪井 陽子	藤間 小秋元
2	小	国語	白岡市立西小学校	教諭	前田 信之	
3	中	国語	松伏町立松伏第二中学校	教諭	神田 博之	
4	中	国語	上尾市立大石中学校	教諭	岩野 江梨	
5	高	国語	熊谷高等学校	教諭	松下 奈緒子	
6	高	国語	朝霞西高等学校	教諭	森田 恭章	
7	小	社会	行田市立南小学校	教諭	向井 隆盛	宮澤 長谷川
8	小	社会	長瀬町立長瀬第一小学校	教諭	佐々島 忠重	
9	中	社会	加須市立加須平成中学校	教諭	大谷 直紀	
10	中	社会	羽生市立東中学校	教諭	田口 和也	
11	高	地歴公民	不動岡高等学校	教諭	大熊 俊之	
12	高	地歴公民	杉戸高等学校	教諭	本橋 正人	
13	小	算数	幸手市立さくら小学校	教諭	秋元 久美子	林 木村
14	小	算数	幸手市立さかえ小学校	教諭	笹山 薫	
15	中	数学	蓮田市立黒浜中学校	教諭	鹿島 善昭	
16	中	数学	八潮市立八條中学校	教諭	島田 直実	
17	高	数学	幸手桜高等学校	教諭	四十物 史幸	
18	高	数学	不動岡高等学校	教諭	飯嶋 正徳	
19	小	理科	越生町立梅園小学校	教諭	森山 卓	鈴木 小川 山田正
20	小	理科	熊谷市立石原小学校	教諭	秋元 恵美	
21	中	理科	上尾市立西中学校	教諭	和田 亜矢子	
22	中	理科	越谷市立光陽中学校	教諭	牛島 健一	
23	高	理科	常盤高等学校	教諭	守屋 典子	
24	高	理科	伊奈学園総合高等学校	教諭	塩原 めぐみ	
25	小	音楽	熊谷市立妻沼小学校	教諭	爪川 由美子	高橋
26	小	音楽	毛呂山町立毛呂山小学校	教諭	岩瀬 和也	
27	中	音楽	富士見市立東中学校	教諭	宮沢 高章	
28	中	音楽	伊奈町立南中学校	教諭	大木 まみこ	
29	高	音楽	芸術総合高等学校	教諭	長田 香保里	
30	高	音楽	上尾高等学校	教諭	神戸 留美子	
31	小	図工	深谷市立深谷西小学校	教諭	古屋 美恵子	山田
32	小	図工	上尾市立西小学校	教諭	児玉 壮史	
33	中	美術	富士見市立西中学校	教諭	高橋 圭輔	
34	中	美術	行田市立長野中学校	教諭	甘樂 絃子	
35	高	美術	日高高等学校	教諭	鈴木 佐和子	
36	高	美術	新座柳瀬高等学校	教諭	武藤 隼人	
37	中	技術・家庭	春日部市立春日部中学校	教諭	浅川 直孝	山本
38	高	工業	春日部工業高等学校	教諭	吉城 守	
39	小	家庭	所沢市立中央小学校	教諭	山下 綾子	白井
40	中	技術・家庭	加須市立大利根中学校	教諭	齋藤 千秋	
41	中	技術・家庭	吉川市立中央中学校	教諭	田崎 祥子	
42	高	家庭	越谷総合技術高等学校	教諭	大竹 晃子	
43	小	道徳	川口市立仲町小学校	教諭	高橋 伸治	嘉藤
44	小	道徳	東松山市立野本小学校	教諭	佐藤 里枝	
45	小	道徳	本庄市立中央小学校	教諭	芳賀 一行	
46	中	道徳	宮代町立須賀中学校	主幹教諭	卯木 昌宣	
47	中	道徳	川口市立榛松中学校	教諭	若林 尚子	
48	中	道徳	北本市立北本中学校	教諭	沢口 裕	
49	小	外国語活動	熊谷市立別府小学校	教諭	深澤 信也	柳湯 浅
50	中	外国語	和光市立大和中学校	教諭	政所 宏真	
51	中	外国語	秩父市立秩父第一中学校	教諭	富田 玲香	
52	高	外国語	秩父高等学校	教諭	中澤 公	
53	高	外国語	大宮光陵高等学校	教諭	日高 康	

6 平成 25 年度の取組

平成 24 年度の調査研究を受け、教科ごとの課題に基づき、調査研究を行った。
各教科の着目点、取り組んだ点内容は以下のとおりである。

教科	着眼点	取り組んだ内容
国語	言語事項の定着（意識化・定着・活用を目指して）	小：比喩を意識した学習指導案の作成 中：文法指導の定着を目指す年間指導計画の作成・実践・検証 高：（現代文）助動詞「れる」「られる」に着目した『羅生門』の指導 （古文）係り結びに着目した読むための文法指導の取組
社会・地歴公民	小・中・高の学校間の学びの連続性、学習内容の系統性を踏まえた接続プログラムの活用	小：「地理」と「歴史」を復習できる接続プログラムの作成と活用 中：「地理」と「歴史」を円滑にスタートするための接続プログラムの作成と活用 高：「現代社会」と「世界史」を円滑にスタートするための接続プログラムの作成と活用
算数・数学	言語活動の充実（指導内容と指導方法を柱とした授業改善）	○小・中・高それぞれの理解・定着が困難な学習内容の指導の在り方 小：「速さ」「比例、反比例」 中：「比例、反比例」「方程式」 高：「三角比」 ○言語活動の充実を通して数学的な思考力、表現力を育成する授業展開の工夫 ・問題解決型の授業　・知識構成型ジグソー法* ・マインドマップ
理科	小中・中高への接続を円滑にするための指導方法の工夫	小中：問題解決的な学習の充実 「課題→予想→観察・実験→結果→考察→結論」の流れを重視した指導方法の工夫・改善 中高：1分野（物理・化学）への苦手意識の解消 数的処理をわかりやすく教える指導方法の工夫・改善
音楽	小中高の円滑な接続に向けて指導方法・指導内容の改善と工夫	小：鑑賞の視点を明確にした指導方法の工夫改善 ①音楽の特徴やよさを言葉で表す鑑賞指導 ②表現と鑑賞の関連を図った鑑賞指導 中：①変声期に入った児童生徒への指導方法の工夫改善 ②アルトリコーダーの指使い等の指導改善 高：原語による歌唱指導の工夫改善
図画工作 ・美術	・作品主義から活動主義への転換を促す授業改善 ・児童生徒の発達の段階に応じた豊かな芸術との出会いづくり	○小中高等学校共通 育成する資質や能力を明確にした学習指導案と環境づくり ○小学校及び中学校 異校種間作品交流プログラムの作成と実践 ○高等学校 芸術との出会いプログラムの作成と実践

技術・家庭 (技術分野) 工業	習得した学力の活用を重視した授業実践	○思考力・判断力・表現力等を育む授業を通して、学習意欲の継続及び向上を図る 中高：教育課程上の共通点や系統性の分析 高：系統性のある学習場面の設定及びその指導方法の工夫
家庭 技術・家庭 (家庭分野)	食生活分野の、習得した知識・技能の各段階における定着ガイダンス授業の工夫	○食生活分野 小：「食」についての知識・技能の定着のための授業づくり 中：「食」についての知識・技能の定着と活用のための授業づくり 高：「食」についての知識・技能の定着と活用と工夫のための授業づくり ○ガイダンス授業の工夫 中：小学校までの学習内容を把握し、中学校の授業を意欲的に取り組ませるための題材やワークシートの開発 3年間の学習に見通しをもたせ、高等学校の学びにつなげる指導の工夫
外国語活動・ 外国語	「Can-do リスト」、 「自信あり！リスト」 の作成・活用による教材の工夫と指導方法の改善 (高校版は 'Language Teaching Assessment')	小：小学校外国語活動「自信あり！リスト」による調査結果に基づく教材の開発とその効果の検証 中：中学英語「Can-do リスト」による調査結果に基づく教材開発とその効果の検証 高：'Language Teaching Assessment'による調査結果に基づく検証と教材開発
道徳	・接続期における小中学校教員間での意識のギャップ解消へ向けた具体的方策の充実 ・児童生徒の自尊感情、自己肯定感の向上を図る道徳の時間の充実	○小中連携モデルプランを活用した演習プログラム作成・実施 ・ギャップ解消に向けたモデルプラン活用による演習プログラムの作成 ・教員向け研修会において演習実施、教員間の意識のギャップ解消への有用性検証 ○自己肯定感、自尊感情等の向上を目指す授業例検証 ・内容項目1-(2)「希望・努力」に関する授業例を活用した検証授業の実施(小・中学校各7学級程度)及び有用性検証

* 東京大学 大学発教育支援コンソーシアム推進機構 (CoREF) 三宅なほみ教授 知識構成型ジグソー法

7 成果と課題

教科の取組から、成果と課題について以下にまとめる。

(1) 成果

① 指導内容・指導計画の視点から

ア 指導内容の工夫・改善

学習指導要領には系統性について以下のように記されている。

各教科等及び各学年相互間の関連を図り、系統的、発展的な指導ができるようにすること。

(中学校学習指導要領総則 第4 指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項1(1)、小学校

学習指導要領総則 第4 指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項1(1)

各教科・科目等について相互の関連を図り、発展的、系統的な指導ができるようにすること。

(高等学校学習指導要領総則 第5款 教育課程の編成・実施に当たって配慮すべき事項 3 指導計画の作成に当たって配慮すべき事項(1))

教科指導は学年等で断ち切って考えるべきものではなく、系統的かつ発展的に行うものである。段差を少なくするため、特に系統的な学習を意識させる必要がある分野、苦手意識を持つ分野で指導内容の検討が有効であると考えられる。各教科でこうした点に着目して検討を行った結果、一定の成果が得られた。

たとえば、国語においては言語事項に着目し、小中高の学びの系統性を調査した結果、言語事項の指導について共通認識を持つことができた。社会・地歴・公民、図画工作・美術は段差を感じやすい分野の接続を図るための接続プログラムを開発し、その有用性を確認することができた。技術・工業においては、思考力・判断力・表現力等の育成を図る中高の学びの接続について研究した。算数・数学、理科、外国語、音楽においては生徒が困難と感じる指導内容において有効な指導を考案し、段差の軽減を図った。家庭ではガイダンスにおける工夫を行い、接続段階での意欲の高揚や心理的負担の軽減を図った。道徳においては小中連携モデルプランを活用した演習プログラムを作成し、実施した。

このように、接続プログラムを実践・検証した結果、児童生徒の意欲、意識の高まりにおいていずれの教科でも一定の成果をあげることができた。(詳細は教科編参照)教科の特性に応じ、児童生徒に学びの連続性を実感させ、つまづく段差を解消するために指導内容の検討を行うことは、接続を考える上で有効な手立てになるといえよう。

イ 指導計画の工夫・改善

高等学校学習指導要領には以下のように記されている。

学校や生徒の実態等に応じ、必要がある場合には、例えば次のような工夫を行い、義務教育段階での学習内容の確実な定着を図るようにすること。

ア 各教科・科目の指導に当たり、義務教育段階での学習内容の確実な定着を図るための学習機会を設けること。

(高等学校学習指導要領総則 第5款 教育課程の編成・実施に当たって配慮すべき事項 3 指導計画の作成に当たって配慮すべき事項 (3))

学習の定着を図るべく、見通しを持って学習に取り組んだり、また、学習を振り返って(さかのぼって)学習内容を定着させたりすることが重要である。そのために、指導内容の工夫・改善に加えて、児童生徒のつまずきや戸惑いを把握し、それを改善できるような、効果的な学習指導計画を考えていく必要があった。

こうした問題意識に基づき、たとえば外国語においては「Can-do リスト」(高校版は'Language Teaching Assessment')、「自信あり!リスト」を作成し、児童生徒に評価させ、その結果に基づき、教材を作成・活用した。学習を積み上げていく様子を生徒に実感させ、それを指導計画に反映させている。児童生徒の実態に応じた指導が可能になり、児童生徒の意識にも変化が見られた。国語においては言語事項定着のための年間指導計画を作成し、指導内容の定着に向け、教師が取り組みやすい計画を示した。これに基づいた指導を行った結果、生徒の意識に明らかに変容が見られた。

今後も、定着を意識した学習指導を計画的に行い、継続的な指導とする必要がある。また、それをより効果的なものにするための指導計画の工夫が求められる。

② 指導方法の視点から

先に掲げた表5には学習形態の違いが表れていた。こうした指導方法の工夫を継続して行っていくことは学習形態の連続性を保つという意味で、滑らかな接続のための有効な手立てになり得るのではないかと考え、検討を加えた。

たとえば、算数・数学では小中高すべての校種で、問題提示、課題設定を工夫し、児童生徒の学習意欲の喚起を図った。そうすることで、生徒同士のコミュニケーションが活発になり、思考力や判断力を伸ばすことができた。指導方法の工夫を小中高でともに探っていく中で、滑らかな接続につなげることができたといえよう。技術・工業では、系統性を持たせた言語活動の充実を通して能力を育む問題解決的な学習の有用性を示している。家庭ではグループ学習での授業の有効性を示している。学習形態について検討し、ともに考えた結果、児童生徒の段差を減少させ、スムーズな学習につなげることができたといえよう。

指導方法についての工夫・改善を通して、主体的に学ぶ姿勢を育成していくことで、確固たる学習への構えを築くことにつなげられるのではないかと考える。

今後も是非継続して考えていきたい課題である。

(2) 課題

具体的な教科指導の視点から、校種をつなぎ、学習の連続性を保つプログラムを考え、その有効性を検証してきた。

しかし、今回提示できるプログラムや指導方法等は全ての領域を網羅するものではない。今後もこうした課題意識を持ち続け、さらに検討を加えていきたい。同時に、学校間の接続に関する視点を多くの方に持っていただき、円滑な接続について、教科指導の面からも支えていきたい。

7 おわりに

学習指導要領総則には、「学校の教育活動を進めるに当たっては、各学校において、生徒に生きる力をはぐくむことを目指し、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かす教育の充実に努めなければならない。」とある。

生徒が自ら主体的に学ぶ姿勢を持つことで、学習への抵抗感を減らし、前向きな学習につなげていくことができるのではないかと考える。こうした「主体的な学び」への転換についてもさらに研究を続けていきたい。

※参考・引用文献

小学校学習指導要領	平成20年3月	文部科学省
中学校学習指導要領	平成20年3月	文部科学省
高等学校学習指導要領	平成21年3月	文部科学省
「接続期プログラム」	平成24年3月	埼玉県教育委員会

「学校間の接続に関する調査研究」協力者名簿

研究協力委員	加須市立北川辺西小学校	教諭	坪井	陽子
	白岡市立西小学校	教諭	前田	信之
	松伏町立松伏第二中学校	教諭	神田	博之
	上尾市立大石中学校	教諭	岩野	江梨
	熊谷高等学校	教諭	松下	奈緒子
	朝霞西高等学校	教諭	森田	恭章
	行田市立南小学校	教諭	向井	隆盛
	長瀨町立長瀨第一小学校	教諭	佐々島	忠重
	加須市立加須平成中学校	教諭	大谷	直紀
	羽生市立東中学校	教諭	田口	和也
	不動岡高等学校	教諭	大熊	俊之
	杉戸高等学校	教諭	本橋	正人
	幸手市立さくら小学校	教諭	秋元	久美子
	幸手市立さかえ小学校	教諭	笹山	薫
	蓮田市立黒浜中学校	教諭	鹿島	善昭
	八潮市立八條中学校	教諭	島田	直実
	幸手桜高等学校	教諭	四十物	史幸
	不動岡高等学校	教諭	飯嶋	正徳
	越生町立梅園小学校	教諭	森山	卓
	熊谷市立石原小学校	教諭	秋元	恵美
	上尾市立西中学校	教諭	和田	亜矢子
	越谷市立光陽中学校	教諭	牛島	健一
	常盤高等学校	教諭	守屋	典子
	伊奈学園総合高等学校	教諭	塩原	めぐみ
	熊谷市立妻沼小学校	教諭	爪川	由美子
	毛呂山町立毛呂山小学校	教諭	岩瀬	和也
	富士見市立東中学校	教諭	宮沢	高章
	伊奈町立南中学校	教諭	大木	まみこ
	芸術総合高等学校	教諭	長田	香保里
	上尾高等学校	教諭	神戸	留美子
	深谷市立深谷西小学校	教諭	古屋	美恵子
	上尾市立西小学校	教諭	児玉	壮史
	富士見市立西中学校	教諭	高橋	圭輔
	行田市立長野中学校	教諭	甘樂	紘子

日高高等学校	教諭	鈴木	佐和子
新座柳瀬高等学校	教諭	武藤	隼人
春日部市立春日部中学校	教諭	浅川	直孝
春日部工業高等学校	教諭	吉城	守
所沢市立中央小学校	教諭	山下	綾子
加須市立大利根中学校	教諭	齋藤	千秋
吉川市立中央中学校	教諭	田崎	祥子
越谷総合技術高等学校	教諭	大竹	晃子
川口市立仲町小学校	教諭	高橋	伸治
東松山市立野本小学校	教諭	佐藤	里枝
本庄市立中央小学校	教諭	芳賀	一行
宮代町立須賀中学校	主幹教諭	卯木	昌宣
川口市立榛松中学校	教諭	若林	尚子
北本市立北本中学校	教諭	沢口	裕
熊谷市立別府小学校	教諭	深澤	信也
和光市立大和中学校	教諭	政所	宏真
秩父市立秩父第一中学校	教諭	富田	玲香
秩父高等学校	教諭	中澤	公
大宮光陵高等学校	教諭	日高	康

担当所員

指導主事（兼）所員	藤間	昌子
指導主事（兼）所員	小秋元	美弥子
指導主事（兼）所員	宮澤	好春
指導主事（兼）所員	長谷川	彰則
指導主事（兼）所員	林	義典
指導主事（兼）所員	木村	真
指導主事（兼）所員	鈴木	香織
指導主事（兼）所員	小川	剛
指導主事（兼）主任専門員	山田	正則
指導主事（兼）所員	高橋	成己
指導主事（兼）所員	山田	一文
指導主事（兼）所員	山本	智広
指導主事（兼）所員	白井	里佳子
指導主事（兼）所員	嘉藤	央
指導主事（兼）所員	柳	充
指導主事（兼）所員	湯浅	達也

平成25年度調査研究報告書 第369号

学校間の接続に関する調査研究－教科指導の視点から－（最終報告）

埼玉県立総合教育センター
教育課程担当